

先輩に聞く！プログラマーへの道しるべ vol.18 渡邊理彩さん

みなさんは、世界の第一線で活躍されている女性プログラマーの方々をご存知でしょうか？ JOI情報オリンピック日本委員会が実施する「先輩に聞く！プログラマーへの道しるべ」では、プログラミングやその周辺の技術や知識を使って活動している女性の先輩方に、お仕事内容や学生時代についてのお話を伺っていきます。

第18回目に登場いただくのは、日本IBM コンサルティング事業本部データ&テクノロジー トランスフォーメーション事業部のWatson Deliveryチームに在籍し、ITスペシャリストとして活躍されている渡邊理彩（わたなべ・りさ）さんです。聞き手はJOI情報オリンピック日本委員会理事で東京大学の山口利恵が務めます。ぜひみなさんの進路の参考にしてみてくださいね。



日本IBM 渡邊理彩さん

IBMの技術ワトソンを使って、システム開発に邁進

山口 IBMという会社名を聞いたことがある方は多いと思うのですが、改めて日本IBMについて簡単に教えていただけますか？

渡邊さん IBMは、企業向けのITコンサルティングや、最新のテクノロジーを利用したシステム導入と運用などを行うグローバルカンパニーです。本社はアメリカですが、世界170カ国以上にIBMの拠点があり、その中で日本IBMは日本法人になります。

山口 渡邊さんはWatson Deliveryチームに所属されています。IBMといえばWatson（ワトソン）が有名ですが、どんなものでしょうか？

渡邊さん 話した内容をテキストに起こしたり、英語から日本語に翻訳したりを叶えてくれるツールです。私はワトソンを使って、お客様の業務改善のためのアプリをつかったり、システムの要件検討や開発を担当したりしています。

最近参加したプロジェクトでは、定年退職が迫っている社員の知識や知見を会社に残すアプリをつくりました。お客様の会社に、「匠（たくみ）」と呼ばれる社員がいたのですが、誰かが質問したらなんでも答えてくれるような存在でした。しかし、もうすぐ退職が決まっていて、このままでは若手社員が困ってしまう…ということで、匠が退職しても知識が社内で継承されるよう、アプリを開発しました。



事業本部にて特別賞を受賞した時の様子。左から2番目が渡邊さん。

山口 それは素晴らしいですね。こちらはお仕事のお写真ですが、何かの授賞式ですか？

渡邊さん はい。翻訳アプリをつくった際に賞をいただきました。資料を日本語から英語に、または他の言語に翻訳するツールです。私は主に開発を担当しました。その他のメンバーはプロジェクト管理や全体の進捗管理、他のお客様への売り込みをサポートしていました。



新入社員へのラウンドテーブルでプレゼン中。

山口 共同作業は楽しいですね。もう一つお写真をお預かりしていますが、これはプレゼンの様子ですね。

渡邊さん こちらは新入社員のラウンドテーブルで、新入社員が先輩社員に仕事の内容や困ったことを聞く座談会の際の写真です。

山口 仕事が楽しいと感じるのはどんなときですか？

渡邊さん さまざまな業界のお客様と仕事をする機会が多いので、業界固有の知識や知見に触れることができるのがとても面白いです。また、お客様やプロジェクトメンバーとのコミュニケーションも楽しいですね。



自宅の仕事環境。リモートワーク時に活用。

大学時代の友人や会社の同期と過ごす休日

山口 日本 IBM は第一志望だったのですか？

渡邊さん そうです。大学時代にアルバイト先の先輩が日本 IBM に就職して活躍されていたのを見て、私も先輩のようになりたいと思いました。

山口 津田塾大学の情報科に進学されたとのことですが、具体的にはどんなことを学ばれましたか？

渡邊さん 音声の声質変化分析を行っていました。例えば、単語に感情が乗ることでイントネーションが変わることを分析し、感情の相関関係や声色、声質を研究していました。現在の仕事においても、音声認識をアプリに組み込むことがあり、役に立っています。

山口 アルバイトも情報系だったそうですね。

渡邊さん 小学生向けのプログラミングスクールのメンターを3年半やっていました。Scratch や iPhone のアプリ開発、Web アプリの開発を教材に教えていました。当時のメンターとは今でも仲が良く、毎月遊んでいるほどです。アルバイトの他にも、女子学生向けのハッカソンやカンファレンスの運営、インターンシップに参加していました。



大学時代、小学生向けプログラミングスクールで運営も経験。

山口 理系に進みたいと思ったきっかけはなんですか？

渡邊さん 高校時代に数学が得意だったことがきっかけです。大学進学にあたっては、文系寄りの職業にも興味があり、文系・理系どちらに進むか決め切れていませんでした。ただ、せっかく大学で学ぶのであれば世界で使える技術力を身につけたいと思い、プログラミングができる理系を選びました。

山口 ご出身は仙台だそうですね。

渡邊さん 宮城県仙台市出身で、高校までは父の転勤で東北を転々としていましたが、主に仙台で過ごしてきました。当時はプログラミングには触れておらず、大学からはじめました。ただ、小学校高学年のときに、学校の友人とのチャットが流行っていて、友人からコマンドの使い方などを教えてもらっていました。今になって思うと、この経験が最初の一步だったのかもしれません。

山口 小中高時代に好きだった科目はなんですか？

渡邊さん 日本史や社会の教科が大好きでした。探究心が強い性格なので、教科書に載ってない知識を先生が教えてくれたり、あとは自分で探したりすることが特に面白かったのを覚えています。



「小学生の頃の夢は建築家でした」（渡邊さん）

大学では映画の分析や研究をテーマに勉強

山口 休みの日はどんなことをされていますか？



ボードゲーム中。奥では猫も参加中。



大学時代の友人と家でタコスパーティー。

渡邊さん 大学時代の友人と集まってボードゲームやホームパーティーをしています。みんなで料理をしながら大学時代の話をするのが楽しいです。それから、会社の同期と休みを合わせてみんなで台湾旅行にも行きました。



会社の同期とみんなで台湾旅行へ。

山口 今後の目標など教えてください。

渡邊さん 今まではミクロな視点で業務に関わることが多かったのですが、今後はより幅広いマクロな視点でプロジェクトをリードしマネジメントするプロジェクトマネージャーになりたいです。また、プロジェクトをより円滑に進めるために、自身が開発者ではない場合でも、プログラミング経験を活かして、開発者とお客様を繋ぐパイプ役になりたいなと思っています。

山口 最後に、未来のプログラマーへメッセージをお願いします。

渡邊さん まずはプログラミングが大好きという気持ちを大切に、プログラミングを楽しんでください。そしてそのあと、自分のスキルで誰かの困りごとを解決できないかとか、より良い社会にできないかとか、ぜひ周りに目を向けてみてほしいなと思います。プログラミングを使って解決できる個人や企業、社会の課題はたくさんあるので、ぜひ自分のスキルを活かしてさまざまなことにチャレンジしてほしいなと思います。

山口 本日はありがとうございました。

【インタビューを終えて】

渡邊さんからワトソンを活用したプロジェクトの話をしていただきました。ワトソンは、IBMといえばワトソン、というくらい有名で、言語を理解する人工知能システムとして先駆けでした。このプロジェクトに憧れた技術者も多くいたものです。

彼女は、そのシステムを活用したプロジェクトでの中心的な役割について話してくださり、とても興味深い内容でした。そんな最先端なものをすすめているなかで、プライベートも素敵でした。（山口）

次回もお楽しみに。